

エゲリア号事件発生から 160 年 日英友好の懸け橋 松前桜

山上 勝治（5期）

はじめに

2023年5月、松前町松前公園で開催された式典に出席しました。式典には松前町町長ほか関係者多数が参列されました。その時の式典の内容とそれにまつわるお話をまとめたいと思います。

約160年前に起きた海難事故バルクエゲリア号遭難(エゲリア号事件)の事を記録する石碑の除幕式が行われました。松前町史の編集にも携わっていた浅利政俊氏¹⁾は、大沢地区の海岸に30年ほど前に設置されたエゲリア号遭難の地を示す木製標柱の文字が劣化のため読めなくなっていたことを知り、当時の松前藩の人々の率先した人命救助や思いやりの心を後世に伝えるため、この度、御影石製の石碑と解説板を建立しました。同日、英国からの来町された桜愛好家の方々の歓迎式が催されました。2022年より英国の貴族所有の庭園やオックスフォード大学の植物園で「松前桜」²⁾を使った新たな桜園造成計画が進んでいます。桜愛好家、桜研究者、英国在住のジャーナリストの方々が、浅利氏に感謝の意を伝えるとともに桜の育成方法や特徴等の助言を得るために来町されました。浅利政俊氏が育成した松前桜は2012年ガーデン・メリット賞³⁾を受賞しました。英国に根付いた松前桜が受賞した事を記念して、2018年には19品種のステンレス製の記念解説板が設置されました。

エゲリア号事件

1863(文久3)年11月20日夜8時頃、日英修好通商条約で開港していた箱館に向け航行中のイギリスの商船が松前町内大沢地区(大沢村大字櫃の下)沖で岩礁に乗り上げた。この年8月孝明天皇から幕府(将軍徳川家茂)に対し攘夷(外国船打払い)の詔勅(天皇が意思を表示する文書)が出るなど我が国近海に侵入する外国船とは一触即発の国際情勢下であり国内各地で衝突が起きていた。

事故発生時は、各国の箱館駐在領事や箱館奉行の役人も船で大沢に来てその処理に当たった。開港場外の遭難の取り扱いは微妙なものであったが、開国論者である松前家第16代藩主崇広は毅然としてこれを救助し、難破船の見える場所に救難小屋を建てて収容し、食料や衣類等を給与する等手厚い看護を加え、なお遊歩地外である松前城下の寺社を見学させる等適切に対応し送還させ、対価を支払う申し出も受けなかった。それに比べ箱館奉行所から派遣された役人は権勢を笠に着て尊大で無能、遭難船員に対する行動も通商条約に違反する行為が多く、これらの振る舞いについては各国駐在領事により強硬な態度がとられた。このような人命尊重の立場から手厚い看護を行った松前藩主崇広の行為は、外国使臣に深い感銘を与えた。特に当事者であるイギリスは領事アールコックの報告によって、1864(元治元)年5月、松前崇広に感謝の意を込めてイギリス皇帝より松前家の家紋(丸に割菱紋)入の金の懐中時計を贈った。崇広は死没するまでこの時計を肌身離さず大切にしていたという。



日英友好の桜

桜を通じた英国との関係は 1993(平成5)年、浅利政俊氏が作出した松前桜 58 種の穂木を英国に無償で寄贈した事に始まります。寄贈された 58 種の桜の穂木は接木増殖(56 種活着)され、ほぼすべてが英国の地に根付き英国民から親しまれました。30 年たった現在、王立公園はじめ英国各地に広がり、2022(令和4)年より英国で新たに松前桜による桜園の造成計画が進められています。



浅利氏は英国から松前桜の購入を依頼された

際、無償で寄贈する旨を返答しました。無償で寄贈した理由は、第2次世界大戦時に函館の捕虜収容所で過酷な労働を強いられ多数の命を落とした英国人に対し「償い」をしたいと言う思いからだったそうです。その後、その桜の穂木が日英友好の架け橋となって英国内で広がったのです。

ガーデン・メリット賞受賞の桜

英国に根付いた松前桜が 2012 年にガーデン・メリット (AGM) 賞を受賞しています(下記 19 品種)。新珠(あらたま)・紅時雨(べにしぐれ)・紅豊(べにゆたか)・新珠錦(あらたまにしき)・潮陵(ちょうりょう)・富貴(ふうき)・暁鐘(ぎょうしょう)・花笠(はながさ)・花車(はなぐるま)・花香琴(はなかごと)・北鵬(ほくほう)・幸福(こうふく)・紅華(こうか)・白雪姫(しらゆきひめ)・静香(しずか)・玉姫(たまひめ)・薄紅九重(うすべにここのえ)・若武者桜(わかむしやざくら)・龍雲院紅八重桜(りゅううんいんべにやえざくら) ※龍雲院紅八重桜は在来種、ほか 18 品種は浅利政俊氏作出

おわりに

今から 160 年前の北海道松前沖での海難事故は、日本が海外に向けて開かれてゆく時代に起きた。大国との関係や国際情勢が混沌とする中で、数多くの日本の桜が国内外で植えられ、その役割を担ってきた。110 年前、米国に寄贈されたワシントンの日米友好の桜は有名だ。日露戦争講和を取り持った米国に対する謝礼の意味もあったという。今では公園や住宅街にも桜が増え、他の都市にも植えられるほど人気が高く、米国民に親しまれている。

30 年前、英国に寄贈され愛され続ける日本の里桜が各地で広がりを見せている。この偉大な功績は、北海道の一人の誠実な桜守の信念の行動によるものだった。英国の地で大切に育てられたこの桜たちは名誉ある賞を受賞した。これからも英国の地で愛され続け、日本との懸け橋になるだろう。

- 1) 浅利政俊：桜研究家、桜守(日本さくらの会)、郷土史研究家、函館桜友の会会長 七飯町在住
- 2) 松前桜：松前公園にある桜約 250 品種、その内浅利政俊氏により育成されたものが 100 種を超える
- 3) ガーデン・メリット賞：(英語：Award of Garden Merit、略称：AGM 賞) は、イギリスの王立園芸協会 (RHS) が植物の種類に与える品質の賞である。(Wikipedia より)

【参考文献】「チェリー・イングラム」阿部菜穂子著／「松前町史」／「福島町史」